

資料 2

生涯職業能力開発体系について

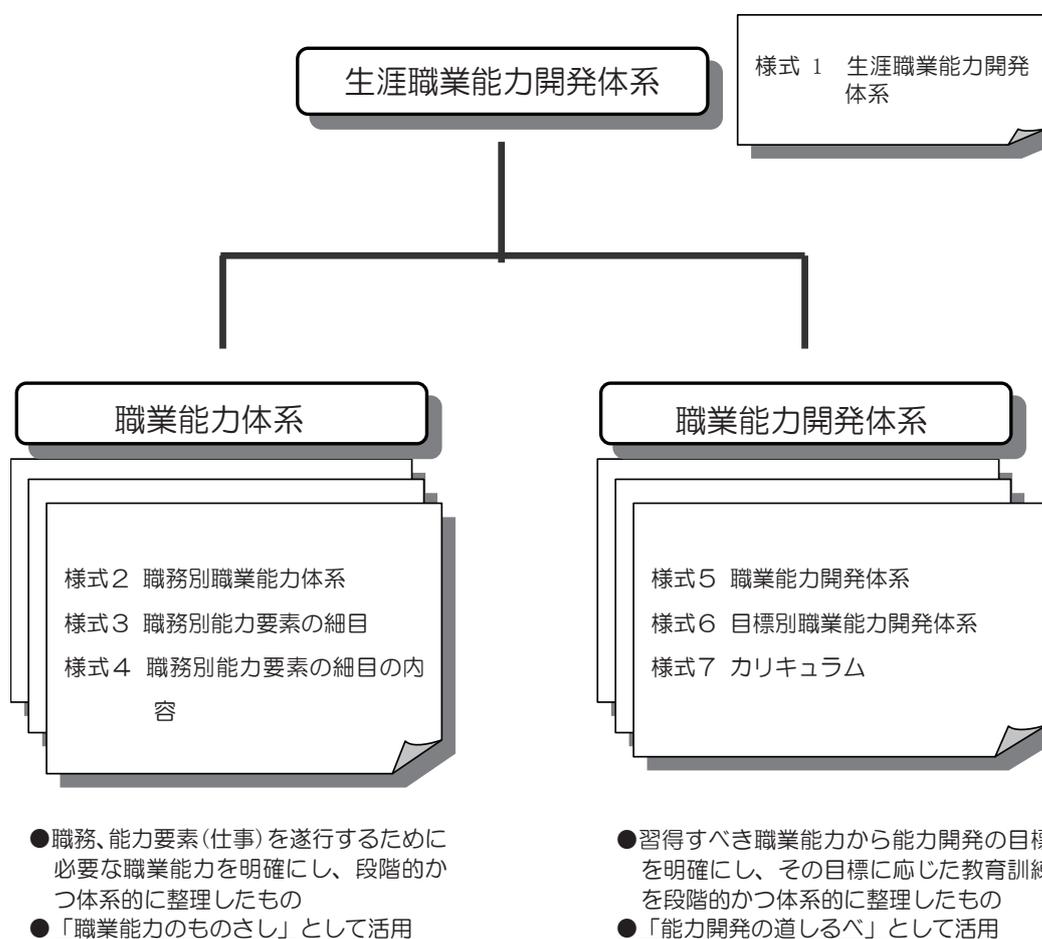
1 生涯職業能力開発体系の概要

生涯職業能力開発体系とは、能力要素(仕事)を行うために必要な職業能力である知識や技能・技術を明らかにし、さらにこの職業能力の開発及び向上のため、教育訓練をどのように進めるかについて、段階的かつ体系的に整理したものである。具体的には、職業能力体系（職業能力のものさし）と職業能力開発体系（能力開発の道しるべ）の二つの体系で構成されている。（図表 B-1 参照）

生涯職業能力開発体系の特徴としては、以下の事柄が挙げられる。

- ・ 団体・企業が有する、または必要とする職業能力（スキル）が明確になる。
- ・ 従業員各人の現在のスキルが明確になり、従業員のスキルの確認、将来目標の設定が容易になる。
- ・ 能力開発の成果がスキル向上により明らかになる。
- ・ 段階的・体系的な人材育成ができる。
- ・ 計画的・効果的な人材育成ができる。
- ・ 人員配置や目標に合わせた効果的な人材育成ができる。

図表 B-1 生涯職業能力開発体系の構成



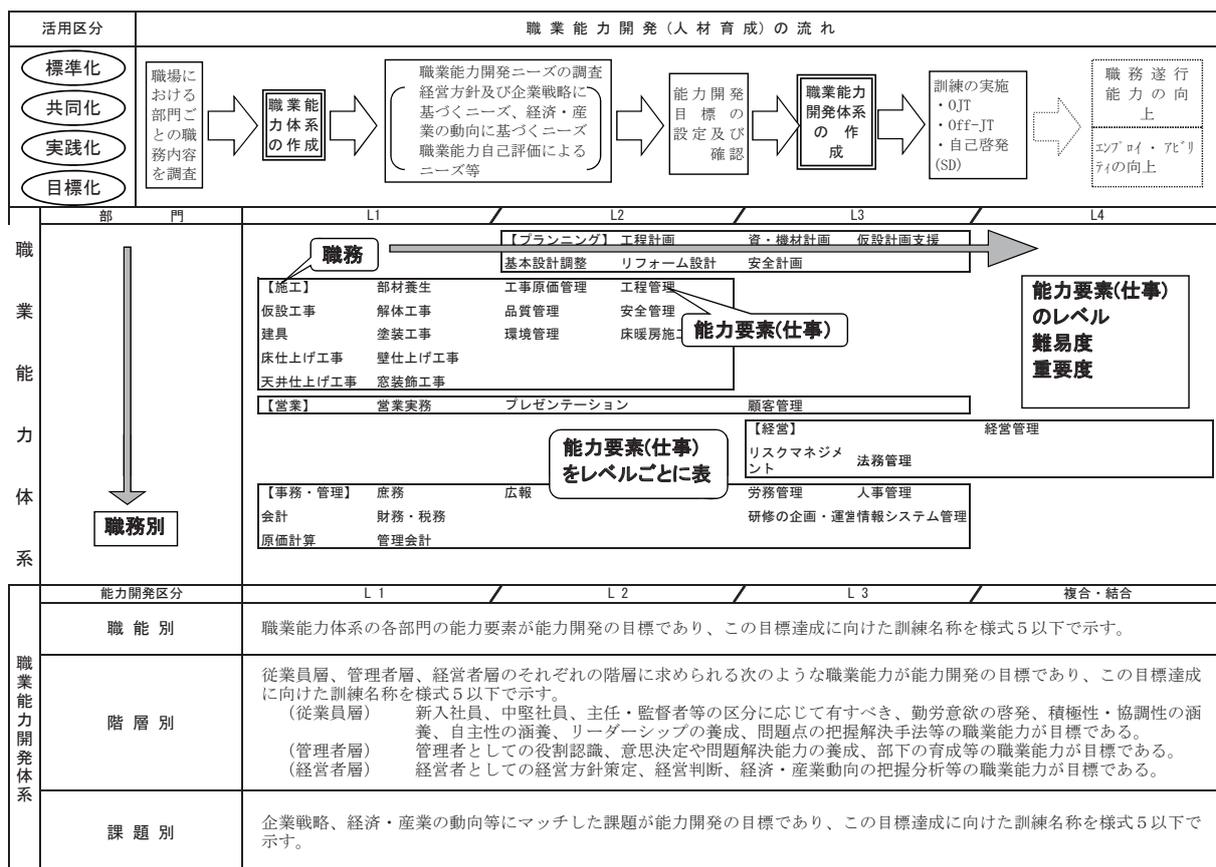
(1) 様式1 (生涯職業能力開発体系)

様式1とは、職業能力体系と職業能力開発体系の全体像を鳥瞰できるように示したものの。(図表B-2)

図表B-2 生涯職業能力開発体系 (床・内装工事業)

床・内装工事業

様式1



(2) 様式 2 (職務別職業能力体系)

様式 2 とは、職務及び能力要素 (仕事) を段階的・体系的に示したもの。(図表 B-3) 分野ごとの能力要素 (仕事) が明確にできる。

図表 B-3 職務別職業能力体系 (床・内装工事業)

床・内装工事業		様式 2			
部門	レベル 職務	L 1	L 2	L 3	L 4
床・内装工事業	プランニング		工程計画 基本設計調整 リフォーム設計	資・機材計画 仮設計画支援 安全計画	
	施工	部材養生	工事原価管理		
		仮設工事	工程管理		
		解体工事	品質管理		
		建具	安全管理		
		塗装工事	環境管理		
		床仕上げ工事	床暖房施工		
		壁仕上げ工事			
		天井仕上げ工事			
		窓装飾工事			
営業	営業実務	プレゼンテーション	顧客管理		
経営			リスクマネジメント	経営管理	
			法務管理		
事務・管理	庶務	広報	労務管理		
	会計		人事管理		
	財務・税務		研修の企画・運営		

職務: 職務内容は企業規模等により変化する

能力要素(仕事)
その人に与えられた業務の内容や構成、質等で企業規

(3) 様式 3 (職務別能力要素の細目)

様式 3 とは、能力要素 (仕事) とそれを構成する能力要素の細目 (作業) を示したものの。(図表 B-4) 作業者に与えられた業務の内容や構成や質、及び一人で実施した方が効率性の高い動作を明確化したもの。

図表 B-4 職務別能力要素の細目 (床・内装工事業)

様式 3

レベル	L1	L2	I3	I4
職務 施工	<p>部材養生</p> <p>養生の確認・撤去作業</p> <p>仮設工事</p> <p>足場設置指示</p> <p>解体工事</p> <p>解体</p> <p>建具</p> <p>建具枠の加工</p> <p>建具枠の取付</p> <p>襖補修及び取付</p> <p>塗装工事</p> <p>廻り縁の塗装作業</p> <p>床仕上げ工事</p> <p>床タイル及びシート施工</p> <p>カーペット施工</p> <p>フリーアクセスフロア</p> <p>木質床施工</p> <p>特殊床 (石材含む) 施工</p> <p>壁仕上げ工事</p> <p>直張り及び下張り工法施工</p> <p>天井仕上げ工事</p> <p>紙・布張り仕上施工</p> <p>塗装仕上げ施工</p> <p>仕上げ塗材仕上げ施工 (吹付け)</p> <p>窓装飾工事</p> <p>カーテン施工</p> <p>ブラインド施工</p> <p>ロールスクリーン施工</p> <p>ローマンシェード施工</p> <p>特殊カーテン工事</p> <p>特殊ブラインド施工</p> <p>特殊ロールスクリーン工事</p> <p>窓装飾用機具修理</p>	<p>工事原価管理</p> <p>工事原価算定</p> <p>資材・材料管理</p> <p>工程管理</p> <p>現場の工程管理</p> <p>工程の調整</p> <p>品質管理</p> <p>搬入資材・材料の品質管理</p> <p>作業現場の品質管理</p> <p>自主検査の記録</p> <p>品質管理推進</p> <p>安全管理</p> <p>現場の安全教育</p> <p>送出し教育の実施</p> <p>災害・事故への対応</p> <p>環境管理</p> <p>環境管理への対応</p> <p>床暖房施工</p> <p>電気式床暖房施工</p> <p>温水式床暖房施工</p>		

能力要素(仕事)

能力要素の細目(作業):
一人の作業者が行った方が効率的であり危険性が低くなる動作のまとめり。

(4) 様式 4 (職務別能力要素の細目の内容)

様式 4 とは、能力要素の細目 (作業) について、その動作一つひとつの内容や範囲、程度等を手順に沿って整理したもの。(図表 B-5) 知識は、その動作を行うためのポイント。

図表 B-5 職務別能力要素の細目の内容 (床・内装工事業)

様式 4

職 務	プランニング	レベル表示	L2
能力要素(仕事)	工程計画		
能力要素の細目(作業)	作業に必要な知識及び技能・技術(主な動作とそのポイント)		
1. 工程計画書の作成	1. 工事の所要工程表を作成することができる 人員配置計画の検討方法を知っている 搬入搬出計画の検討方法を知っている CPM(complete project management)による工程計画書の作成方法を知っている		
	2. 元請業者や施主等に工程計画書の説明ができる 工程計画表の内容を知っている 元請業者や施主等に説明する上での留意点を知っている		
	3. 工程計画書の修正ができる 工程計画書の指摘事項に係る対応方法を知っている 工事工程表の修正方法を知っている 修正した工事工程表の内容についての調整方法を知っている		
2. 工程変更への対応	1. 工期の一時中止や変更にあたって施主等と協議することができる 工期の変更や一時中止にあたっての対応方法を知っている 工期の変更や一時中止にあたっての対応手順を知っている		
	2. 工期の一時中止や変更にあたって必要となる日数、人員等の算出ができる 追加日数及び人工の算出方法を知っている 追加日数及び人工の算出による経費の算出方法を知っている		
	3. 工期の一時中止や変更にあたって変更工程表の作成ができる 工程表の変更方法を知っている 変更後の工程表の調整方法を知っている		

(5) 様式5(職業能力開発体系)

様式5とは、職業能力開発体系の全体像を鳥瞰できるように示したもの。(図表B-6)職能別、階層別、課題別に訓練名称を段階的・体系的に示している。(本調査研究では作成に至っていない)

図表 B-6 職業能力開発体系

様式 5

職業能力開発体系						
区分	部門	職務	専門領域	専門	高度専門	高度複合・統合
職能別	経営	経営企画		企画書作成	企画・発想力開発	経営戦略
	総務	総務業務	OA操作・文書作成 一般総務業務	文書・資料作成管理 実務		企画立案
		人事・労務管理	人事・労務の基礎	法務・渉外実務 人事・給与・社会 労務企画管理 能力開発実務	法務・渉外管理	
	経理	財務・税務会計	経理の基礎	財務会計実務 税務会計実務	財務会計	
		原価計算 管理会計		原価計算実務 管理会計実務		
	営業	営業企画管理		マーケティング実務		営業・マーケティング戦略
		営業活動	営業販売基礎技術	営業技術	販売管理 マーケティング	
	生産管理	工程管理	生産管理基礎	生産計画 工程管理		
		設備管理				生産システム設計
	品質管理	品質管理				
製造	組立	部品実装組立	機械部品組立基礎 電装部品組立基礎			新素材加工の動向
	製造	旋盤加工	機械図面の見方 旋盤(1) 旋盤(2)	旋盤(3) 旋盤応用(1) 旋盤応用(2)	旋盤エキスパート	最先端切削加工技術
		フライス盤加工	フライス盤基礎	フライス盤応用	難削材切削加工技術	
技術電装設計	実装設計					

区分	階層(訓練対象者)	専門領域	専門	高度	高度複合・統合	
階層別	新入社員	新規採用	会社概要 マナー基本	仕事の進め方 ビジネスマナー		
		中途採用	会社概要	仕事の進め方		
	中堅社員	総合職		OJTの基本と実践 問題解決手法 コミュニケーション	マネジメント基礎 リーダーシップ 部下の指導	
		技術職		OJTの基本と実践	マネジメント基礎 リーダーシップ 部下の指導	
管理・監督者			人の扱い方			
経営幹部					経営管理実践 戦略発想	

区分	課題	専門領域	専門	高度専門	高度複合・統合	
課題例	IT化推進	情報リテラシー	OA研修 パソコン利用技術	インターネット利用技術		
		電子調達対応		電子商取引技術		
	営業力強化	顧客折衝力強化	ディベート術	プレゼンテーション技術	提案型営業 コンサルティング 営業	
		顧客情報管理強化			顧客管理技術(CRM)	ナレッジマネジメント
国際化	国際対応力	英会話初級	ビジネス英語			

(6) 様式6(目標別職業能力開発体系)

様式6とは、職能別、階層別、課題別に、能力開発目標ごとの訓練名称を示したものの。(図表B-7)能力開発の目標とそれに対応した訓練名称が確認できる。(本調査研究では作成に至っていない)

図表B-7 目標別職業能力開発体系

様式6

〇〇製造業		目標別職業能力開発体系				様式6 (職能別)	
部門 職務	能力開発目標	専門基礎	専門	高度専門	高度複合・統合		
製造 旋盤加工	* 外形加工 能力要素により設定 旋盤による高精度加工を習得する。	図面の見方 旋盤(1)	旋盤(2) 旋盤(3) 旋盤(4) 旋盤(4)	旋盤応用(1) 訓練名称 精密切削加工 旋盤のエキスパート	先端切削技	新素材加工	
能力要素に関する具体的な目標を設定							
階層(訓練対象者)	能力開発目標	専門基礎	専門	高度専門	高度複合・統合		
中堅社員	中堅の役割としての部下の育成及びリーダーシップ等をはじめとする統率力を身につける。 技術食に必要な部下に対する部下及びリーダーシップとしての指導をつける。		OJTの基本と実践 コミュニケーション 問題解決手法 OJTの基本と実践	マネジメント基礎 リーダーシップ 部下の指導 マネジメント基礎 リーダーシップ	訓練名称		
階層に求められる具体的な職業能力により設定							
課題	能力開発目標	専門基礎	専門	高度専門	高度複合・統合		
IT化推進	全社的な情報化を推進するために必要な情報リテラシーの向上。 インターネット上における	OA研修 パソコン利用技術	インターネット利用技術 電子商取引技術		訓練名称		
営業力強化	顧客情報管理強化	ディベート術	プレゼンテーション技術	提案型営業 コンサルティング営業 顧客管理技術(CRM)	ナレッジマネジメント		
国際化	国際対応力の強化	英会話初級	ビジネス英語				

(7) 様式7 (カリキュラム)

様式7とは、訓練名称のカリキュラムを示したもの(図表B-8)。訓練を実施するための具体的な内容が確認できる。(本調査研究では作成に至っていないが、図表B-8はTetras¹掲載のデータを引用した。カリキュラムの考え方については73～75ページを参照のこと。)

図表B-8 カリキュラムモデル(床・内装工事業)

様式7

カリキュラムモデル			分類番号
			S201-803-2
訓練分野	管理・事務系	訓練コース	建設業安全衛生実務
訓練対象者	建設関係企業の安全衛生実務担当者		
訓練目標	建設労働災害及び疾病について理解し、その防止施策と実務の知識、技能を習得する。		
教科の細目	内 容	訓練時間	
		(H)	
1. 安全衛生管理	(1) 建設労働災害の特徴と要因	4.0	
	(2) 建設労働疾病の特徴と要因		
2. 監督等	(1) 労働安全衛生法	4.0	
	(2) 職長とその他の現場監督者等		
	(3) 作業主任者		
	(4) 安全点検制度		
3. 労働安全衛生管理	(1) 災害防止	4.0	
	イ. 墜落災害		
	ロ. 建設機械による災害		
	ハ. 感電災害		
	ニ. 土石崩壊災害		
	ホ. クレーン災害		
	ヘ. 交通災害		
	ト. 地下工事における災害		
	チ. 酸素欠乏災害		
	リ. 高気圧障害災害		
ヌ. 有機溶剤災害			
ル. じん肺災害			
			訓練時間合計
			12.0
使用器具等			
養成する能力			

¹ 雇用支援機構では、対象者(離転職者、在職者、学卒者等)に合わせてカリキュラムや教材を開発し訓練を実施している。これらのカリキュラムや教材は、職業能力開発ステーションサポートシステム(Tetras)(<http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/index.html>)のカリキュラム検索により閲覧可能となっている。

成を参考にする。また、対象者の修得レベルに応じて、初心者に対する基本訓練コース、経験者に対する応用訓練コースのように段階的に設定する。

例えば、基本訓練コースは、業務構成の最小単位である「能力要素の細目(作業)」を基本訓練の単位として検討し、訓練コースを設定する。応用訓練コースは、基本訓練コースを修得してさらに上の目標を目指すことから、基本訓練コースより一段階上の「能力要素(仕事)」を応用訓練の単位として検討し、訓練コースを設定する³。

b 訓練目標

訓練目標とは、修得すべき職業能力を明確にしたものである。はじめに、これを検討するには、職業能力体系において具体的な作業ポイントを示した「作業に必要な知識、技術・技能」の項目を参考にする。具体的には、「～ができる」という表記に注目し、作業をスムーズに達成するために何ができなければならないかを検討する。

「～ができる」は主要なものを3つ程度に絞り込んでいるので、これらの表記を盛り込んで訓練目標を導き出す。

上記は、主に基本訓練における訓練目標の導き出し方であるが、応用訓練においては、一段階上の「能力要素の細目(作業)」の項目を参考に、先の基本訓練の目標を包括するような表記を導き出す。

c 訓練内容

訓練内容は、訓練目標をさらに具体的に表したものである。この検討に当たっては、訓練目標と同様に「作業に必要な技能・技術及び知識」の項目を吟味する。訓練目標では動作ができることに注目したが、訓練内容ではその動作を裏付けている判断や工夫に注目し、「～を知っている」という表記を参照して具体的な訓練内容を導き出していく。ただし、判断や工夫点についても主要な3つ程度しか表記していないので、必要な要素を補完していくことが必要である。

上記は、主に基本訓練における訓練内容の導き出し方であるが、応用訓練において

³ 職業能力体系の最小単位である能力要素の細目(作業)を再分類して、カリキュラムの単位とする考え方もある。

①断片的知識の体系化

各職務に共通する能力要素の細目(作業)(その職務に必要最小限の要素であるが、断片的でもある)を横断的に括り、断片的な要素を体系的に整理する。

(例) 建築設計、建築施工の各職務に建築法規、建築基準がある。→断片的に散在していたものを「建築法規、基準」という体系的にまとめた訓練コース(訓練単位)にする。

②キーとなる共通要素

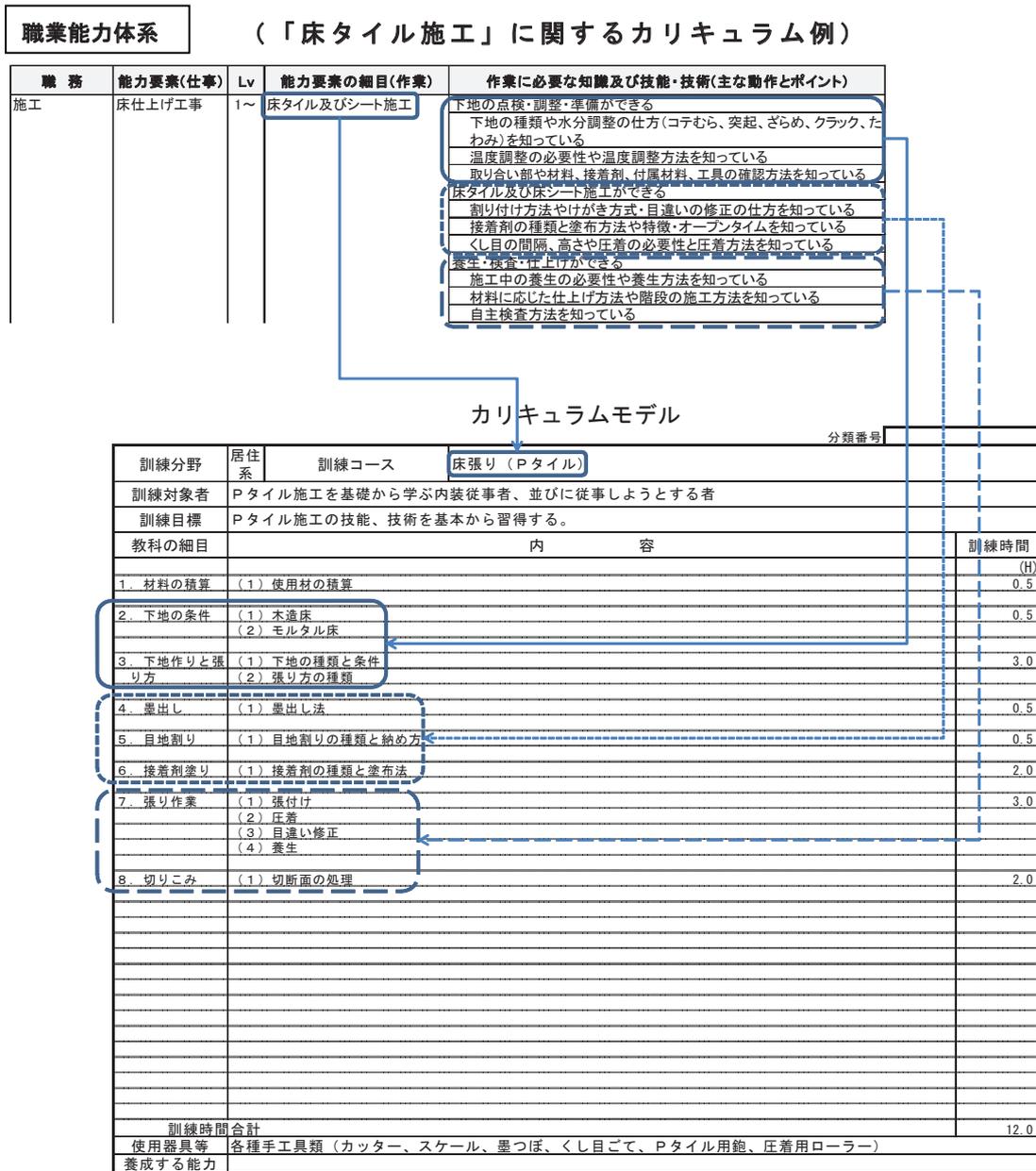
職務のキーとなる能力要素の細目(作業)をカリキュラム要素として組込む。

(例) 各作業の重点事項として安全の要素があるが、安全管理者のような全般に渡る知識・技能の専門性の必要はない。そこで、各作業の重点要素として「安全作業」のカリキュラムを設け、各作業の訓練に先立って行う。

は、一段階上の「能力要素の細目（作業）」の項目を参考に、先の基本訓練の内容を包括するような表記を導き出す。

以上の視点を踏まえ、床・内装工事業におけるカリキュラムモデル¹の一例を図表 B-9 に示す。この図表は、床タイル施工に関して、職業能力体系とカリキュラムの関係を矢印で示している。

図表 B-9 職業能力体系とカリキュラムの関係



¹ 雇用支援機構では、対象者(離転職者、在職者、学卒者等)に合わせてカリキュラムや教材を開発し訓練を実施している。これらのカリキュラムや教材は、職業能力開発ステーションサポートシステム(<http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/index.html>)のカリキュラム検索により閲覧可能となっている。

3 生涯職業能力開発体系を活用した人材育成の流れ

生涯職業能力開発体系を活用した人材育成の流れは、訓練目標となる「職務」、「能力要素（仕事）」、「能力要素の細目（作業）」、「作業に必要な知識及び技能・技術」を明確にした後（能力要素(仕事)の明確化）、自己評価等により現在有する職業能力を明確にして（能力の明確化）、これから修得すべき職業能力を明確にする。（図表 B-10 参照）

修得すべき職業能力（訓練目標）が明確になった後、研修の体系において、標準として蓄積された訓練カリキュラム等を参照し、その訓練効果を考慮しながら段階的・体系的に訓練プログラムを策定する（能力開発の明確化）。

図表 B-10 生涯職業能力開発体系を活用した人材育成の流れ



(1) 能力要素(仕事)の明確化

a 能力要素(仕事)の棚卸し(職務分析)

職務や能力要素の内容を調査、整理するために、企業内の経営活動における各部門、職務、能力要素(仕事)、作業、作業に必要な知識及び技術・技能を業種毎に分析、抽出する（モデルデータの作成）。

b 能力要素(仕事)の体系の作成(職業能力体系)

職務、能力要素(仕事)を遂行するために必要な職業能力を明確にし、その能力を段階的かつ体系的に整理する。

- ・生涯職業能力開発体系（様式 1）
- ・職務別職業能力体系（様式 2）
- ・職務別能力要素の細目（様式 3）
- ・職務別能力要素の細目の内容（様式 4）

(2) 能力の明確化

a 能力評価(職業能力の把握)

職務等に対する従業員の職業能力を明確化するため、職業能力評価システムを活用して、自己の職業能力を評価する。

(3) 目標の明確化

a 目標設定

自己の評価に基づいて、今後必要とされる能力開発の目標を設定する。

(4) 能力開発の明確化

a 研修体系の作成（職業能力開発体系）

修得すべき職業能力から能力開発の目標を明確にし、その目標に応じた「研修コース」等の教育訓練コースを段階的かつ体系的に整理する。

- ・職業能力開発体系（様式 5）
- ・目標別職業能力開発体系（様式 6）
- ・カリキュラム（様式 7）

b 教育訓練の実施

OJT

Off-JT

自己啓発（SD）等

アンケート調査へのご協力をお願い

資料シリーズNo.48

今後、基盤整備センターがより良い調査・研究を行うために、本書のご活用事例のアンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。

以下のフォームに直接ご記入いただくか、ホームページ (<http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/>) からダウンロードしていただき、FAXまたはメールで下記までお送りください。

1) 活用した内容 (いつ、何のために、活用したページ、 どのように、複製の有無)	
2) 本書に対するご意見、ご要望、今後期待するテーマ	
3) 連絡先 (施設名、役職、電話番号)	

宛先 基盤整備センター普及促進室

FAX 0422-38-5228

メール fukyu@uitec.ac.jp

その他、お問い合わせは基盤整備センター普及促進室 (TEL 0422-38-5225) にご連絡下さい。

本報告書等は、基盤整備センターホームページ「職業能力開発ステーションサポートシステム（TETRAS）」の「基盤整備センター刊行物検索」から閲覧、ダウンロードができます。

URL : <http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/>

資料シリーズ No. 48

「床・内装工事業に係る職業能力体系の整備等に関する調査研究」

発行 2013年3月
発行者 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
職業能力開発総合大学校 基盤整備センター
所長 長谷川 健治
〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-19-18 武蔵野センタービル4F
電話 0422-38-5225（普及促進室）
印刷 株式会社旭クリエイト
〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-3-17 宮方ビル4F
電話 045-620-8890

本書の著作権は独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が有しております。